

**FUJIEDA ROTARY CLUB**  
**藤枝ロータリークラブ会報**

例 会 : 毎週水曜日 小杉苑  
 藤枝市青木2-35-30 TEL : 054-641-3321  
 事務局 : 藤枝市青木1-11-10 TEL : 054-647-2300  
 FAX : 054-647-2040  
 E-mail : club1972@fujieda-rotary.org

会長:鈴木 舜光 副会長:大長 昭子 幹事:島村 武慶 副幹事:大塚 高弘

**第2150回** ♪ソング…我らが藤枝ロータリー ♪ソングリーダー…鈴木 透君



**ROTARY  
SERVING  
HUMANITY**

2016-2017年度 R1テーマ  
**人類に奉仕するロータリー**

**副会長報告**

大長 昭子君

鈴木会長に代わり  
 会長挨拶・報告を  
 させていただきました。



26・27日  
 鈴木会長のお母様  
 の、通夜・葬儀に  
 参列いただきましてありがとうございました。

昨日甲賀病院へ入院されている櫻井会員のお見舞いに森下パスト会長と行ってまいりました。

左大腿骨骨折の為、市立病院で手術後、リハビリの為に甲賀病院に転院されています。

車椅子で移動することが出来、元気に過ごされていました。

怪我の原因は、夜のトイレ時に、寝室のドアがしまっていると思い込み、開けた勢いで倒れてしまったようです。

あと1ヶ月半リハビリを行い、市内の病院に転院する予定だそうです。

足の骨折は、歩けないのでどうしようもない、早く例会に出席したいとおっしゃっていました。

ご高齢の方は、転倒すると大腿骨骨折に繋がりがやすく、寝たきりに繋がることが多いので当クラブも、私を含めご高齢の皆様は、くれぐれもお気を付けください。

例会にお見えになる日を心からお待ちしたいと思えます。

**幹事報告**

島村 武慶君

・第2620地区より

2016年9月のロータリーレートは1ドル=102円です。

・緑の募金運動により下記の通り集まりましたので、藤枝市役所にお届けします。ご協力ありがとうございました。

8/24 16,300円  
 8/31 8,550円  
 計 24,850円

**出席報告**

土屋 富士子君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
33/42 78.57%	35/42 83.33%

(1)欠席者(事前連絡とメイクアップをどうぞ)

○青島彰君 ○石垣君 ○大杉君 ○櫻井君  
 ○菅原君 ○鈴木舜君 ○仲田晃君 ○村松英君  
 鈴木邦君

(2)メイクアップ者

鈴木 舜光君(藤枝南) 青島 克郎君(藤枝南)  
 青島 鉄男君(藤枝南) 間野 日出夫君(藤枝南)  
 池ノ谷 敏正君(藤枝南)

**ビジター**

キム・テワン君(米山奨学生)

**会員卓話**

[テーブルメイトA会議報告]…小西 啓一君

8月26日午後6:00より9:00の3時間、メンバー全員出席し会議を開きました。テーマは31日に開かれる規定審議会決定報告書検討委員会への意見集約と、31日の卓話の担当について話し合いを持ちました。

委員会への意見集約については、事前に配布したアンケートについて全員が意見を発表し、荒井聡さんがまとめ31日の卓話時間の中で発表

することとなりました。詳細については荒井聡さんの報告文書の通りメンバーから様々な意見が出ましたが、概ねロータリー歴の長い会員からは現状維持、短い会員からは決定に近い意見が出されたと思います。

31日の卓話については荒井聡さんの発表に続いて、小西啓一が会議の全体の様子を話し、続けて残り時間卓話をすることに決まりました。

メンバーの中の小西・栗原・青島彰の会長経験者の意見が副会長の大長昭子さん、幹事の島村武慶さんの今後の会の運営に少しでも役立つものがあれば幸いだと思えます。最高年齢80才から40才までの年齢差がある中で自由に意見を交換できるこの会合の良さ痛感しながら、1時間ぐらいで議題については終了し、残り2時間様々な内容について忌憚ない話し合いでお互いの理解を深めることができました。

(温故知新)グループの会合としては以前の5人組・炉辺会合の方が良かったと思えます。

テーブルメイトA  
荒井 聡君



8月26日開催の炉辺会合の議事メモを下記の通り作成致しました。

内容に不備があるかもしれませんが、ご一読いただきますようお願い致します。

尚、8月31日の例会で下記内容を取りまとめてダイジェストを発表させていただきます。

テーブルメイトA 炉辺会合 議事メモ

■2016年度規定審議会決定報告書検討委員会への意見

### 1. クラブ例会の開催回数について

(ロータリークラブ定款 第6条 会合 第1節 例会)

- ・現状の通り週1回開催でよい
- ・例会でもっているのがロータリークラブの活動であり従来どおり週1回開催でよい  
例会開催は出席率の問題とは別である
- ・事業予算との関連からすれば、例会回数を減らすことにより経費削減ということもある

年会費の問題とも関係してくる

- ・慣れるまでが大変なので月3回開催が良いと思う
- ・運営上の問題として予算的に月4回は厳しい事務局経費の増加額は例会1回開催費用に相当する

### 2. クラブ例会出席率に関わる規定について

(ロータリークラブ定款 第11条 第4節 出席率 終結-欠席)

- ・現在の定款規定(例会4回連続欠席で会員資格喪失)のままよい
- ・定款規定に基づき退会勧告はやるべき  
大半の会員は出席する努力をしており、これまでの取扱いの経緯や現状の出席状況等から厳格に対応すべき  
規定審議のタイミングはいろいろ検討するのによい機会と考える
- ・実態を検証して、あらためて理事会で検討すべき

### 3. 入会金および会費について

(藤枝ロータリークラブ細則 第6条 入会金と会費)

- ・現在の規定どおりでよい
- ・入会金の徴収については基金勘定への組入れとの関係があると思う
- ・会員グッズもあるので実費程度の徴収という考え方もある

### 4. 委員会の設置に関する事項について

(藤枝ロータリークラブ細則 第8条 委員会 第1節)

- ・「青少年」を削除しようとしまいと名称の問題ではなく活動内容が重要と考える  
クラブの自由な型で良いのではないか
- ・幅広い活動ということで「公共」委員会への変更はよいと考える

○全体を通しての意見

- ・4つのテーマは個々ではなく様々な関連があるので、関連付けて検討する必要がある
- ・規定がちゃんと守られていないという現状があり、厳格に規定に基づく運営・運用をするべきだと思う

テーブルメイトA  
リーダー  
小西 啓一君



1945年(昭和20年)

8月15日を中心とした戦時中・終戦・戦後の思い出を話したいと思います。

あの日から71年が経過いたしました。私は昭和10年の生まれですから、その日は満9才と8ヶ月で国民学校の4年生でした。当日は夏休みで近くの小川か蓮華寺池に魚取りに出かけ、帰ってきたら大人から日本が戦争に負けたと聞かされました。子供ながら日に日に空襲が増え食糧難の厳しい状況から大変な状況とは思っていましたが、まさか日本が戦争に負けるとは理解の範囲を超えて実感はありませんでしたが、子供心に戦争に負けると男の子は皆大切な処を取られると聞かされていたので「これからはどうなるかな」との思いがしましたが、警戒警報も空襲警報も無い静かな日が何日か続き、米軍のグラマン戦闘機の乗員が見えるほどの低空飛行で旋回をしていても警報もなく、防空壕に隠れないで空を見上げながら「日本は本当に負けたのかな」と心の片隅に疑問をもちながらも静かな現実に慣れだしていました。

家族は父・母・祖父・祖母・弟の6人と住み込みの女中さんが一人、販売する商品は無く店は閉めた状態で指定された配給物(食用油やマッチ)を時々配給する仕事をし、又父は徴用を逃れるため近所の食品加工所に勤めていました。

子供たちは学校へ行かず近所の公民館で1年生から6年生まで一纏めで2学年1組の単位で授業を受けていました。夜間空襲警報があると翌日は休みという状況が終戦まで数ヶ月続き、祖父母と子供達は川根の家山に疎開しようとの話も出始めていました。学校は陸軍の通信部隊が多分数十名の兵隊さんが泊まり込んでいましたが、指揮官の将校は二十歳前後で一般の兵隊さんは子供の私からみても父ぐらいの年配の兵隊さんに見えました。

子供なりにもつらかった事は、食糧難でした。学校のグラウンドを始め屋敷の空き地は総て畑になり石や瓦の破片が出る荒地にサツマイモやキュウリ・茄子等を植え人糞や馬糞を肥料に栽培した作物のサツマイモは水っぽくて苦く、

空腹を満たす食べ物で現代の私たちが食べている食物とは似つかない物でした。主食はサツマイモの粉で作ったすいとんやカボチャ、芋の葉っぱなどでした。榎の実・椎の実・桑の実・野イチゴの実・つつじの花の蜜・田んぼのイナゴ・タニシ・鮒やモロコ・鮎などの川魚等々様々な物を食べた記憶があります。

終戦から数週間が過ぎてから東海道を進駐軍の軍用車両が西から東に大挙して通過するのを見て圧倒的な物量を見せつけられ日本が負けた訳が分かるようになりました。丁度その頃小学生に缶に入ったバターピーナッツが配給になり美味しくて幾日もかけて食べた事は忘れられません。

昭和18年から23年頃までの戦時統制下の苦しい時代に比べれば、戦後の石油ショック・リーマンショックからの現在の不況と苦しい思いをしているが「あの時にくらべれば」の基準が私たちの世代の根っこにはあるのではないかと思います。

(担当/池ノ谷君)